

1 ユニットケア

ゆにっとけあ

→ p.294 参照

とくべつようごろうじん きよしつ
特別養護老人ホームなどにおいて、居室を
いくつものグループに分けて1つの生活単
位とし、少人数の家庭的な雰囲気の中
で行うケアのこと。ユニットごとに食堂や談
話スペースなどを設け、また職員の勤務形
態もユニットごとに組むなど、施設のなか
で居宅に近い居住環境をつくり出し、利用
者一人ひとりの個別性を尊重したケアを行
う試みといえる。

2 QOL

キューオーエル

→ p.300 参照

Quality of Life の略。「生活の質」「人生の
質」「生命の質」などと訳される。一般的
な考えは、生活者の満足感・安定感・幸福
感を規定している諸要因の質のこと。諸要
因の一方に生活者自身の意識構造、もう一
方に生活の場の諸環境があると考えられ
る。

3 生物学的側面

せいぶつがくてきそくめん

→ p.300 参照

しんたいきのうのうりよく しつべい しやうがい ろうか
身体機能や能力、疾病や障害、老化などを
通じて生物として人をとらえる側面。

4 心理学的側面

しんりがくてきそくめん

→ p.300 参照

にんち ちせい かんじやう せいかく たいしやうこうどう
認知、知性、感情、性格、対処行動などの
精神活動を通じて人をとらえる側面。

5 社会学的側面

しゃかいがくてきそくめん

→ p.300 参照

にんげんかんけい しゃかいかんけい くわ せいじ けい
人間関係や社会関係に加えて、政治、経
済、文化、風習、歴史、教育などの社会的
つながりや活動を通じて人をとらえる側
面。

6 実存的側面

じつぞんできそくめん

→ p.300 参照

かちかん じんせいかん しせいがん しやうきやうかん けい
価値観、人生観、死生観、宗教観など、経
験によって得られた物事に対する考え方の
基準を通じて人をとらえる側面。

7 BPSD (行動・心理症状)

ビーピーエスディー(こうどう・しんりしやうじやう)

→ p.303 参照

じやうらい にんちしやう しやうへんしやうじやう よ
従来、認知症の「周辺症状」と呼ばれてい
たものが、最近では BPSD (Behavioral
and Psychological Symptoms of Dementia)
と表現されることが増えた。以前は認知症
の初期症状としては中核症状だけがあり、
周辺症状はないと考えられていたが、実は

しよき だんかい ふあんかん きふん しず
初期の段階でも、不安感や気分の沈みなど
の心理面の障害があらわれることがわかっ
た。そこで、BPSD という言葉により、
認知症の初期から行動面・心理面の変化が
あらわれることを理解し、より本人の気持
ちに寄り添ったケアをめざすようになった。

8 IADL

アイイーディーエル

→ p.310 参照

Instrumental Activities of Daily Living の
略。「手段的日常生活動作」と訳される。
ADL が食事、入浴、排泄などの日常生活
の基本動作であるのに対し、IADL は、バ
スに乗って買い物に行く、電話をかける、
食事のしたくをするなどのように、より広
義かつ ADL で使用する動作を応用した動
作 (ADL より複雑な動作) をさす。

9 ADL

イーディーエル

→ p.310 参照

Activities of Daily Living の略。「日常生
活動作」「日常生活活動」などと訳される。
人間が毎日の生活を送るための基本的動作
群のことで、食事、更衣、整容、排泄、入
浴、移乗、移動などがある。

10 自己覚知

じこかくち

→ p.312 参照

かいごしやく のうりよく せいかく こせい し
介護職がみずからの能力、性格、個性を知
り、感情や態度を意識的にコントロールす
ること。